

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立出雲中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ ICT を適宜活用し、視覚的な資料の読み取り、生徒同士の学びあいを行うことができた。
- ・ 毎時の授業冒頭や、適切な場面で既習事項の確認テスト等を行い、基礎・基本の定着を図ることができた。

(2) 課題

- ・ 引き続き、ICT を適宜適切な場面で活用し、視覚的に把握する学習や資料活用、思考力を高める取り組みをより一層充実させていく必要がある。
- ・ 定期的に既習事項の確認テスト等を行い、基礎・基本の定着を図るとともに、資料の読み取りや考えをまとめる時間を確保する。
- ・ 複数の資料を読み取ってまとめたり、自分の考えを問題に正対して答えること。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	知識・理解に関する問題（政治分野、歴史分野、国際分野いずれも）目標値を下回った。	/	/
第2学年	地理的分野、歴史的分野ともにほとんどの単元で目標値を下回った。	目標値をやや下回っている。歴史的分野では、現代の方が正答率が低かった。	/
第3学年	地形図を基にした分野、明治時代の単元では目標値を上回ったが、日本の地域的特色、江戸時代の単元では目標値に届かなかった。	歴史的分野は目標値を上回っている。地理的分野や、複数の資料を読み取って判断する問いで正答率が低く、課題がある。	地理的分野では、「我が国の農林水産業」が目標値を下回った。歴史的分野では、古代に遡るほど正答率が低かった。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識・理解に関する問題（政治分野、歴史分野、国際分野いずれも）目標値を下回った。特に明治期後半の問題が一桁の正答率であるなど、学んだ内容に濃淡がある可能性も考えられる。	資料の読み取りの問題は比較的目標値に近い。しかし、近現代に関しては読み取り問題は下回った。	読み取りは概ねできているが、そこから何が分かるかを適切に書くことが課題だと考えられる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回った。基礎的な語句の理解について、定着を図る必要がある。	目標値を下回った。資料を基に判断、考察、表現することに課題がある。	記述で答える問題に、無回答の割合が高いことから、資料を読み取るポイントを押さえる必要がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値をやや下回った。細かな用語まで理解している生徒の割合が高くなかった。	目標値をやや上回った。資料を基に判断することは概ねできるようになっているが、複数の資料の読み取りが、依然として課題である。	記述で答える問いに対して無回答の割合が少なく、回答しようとする姿勢が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元または節の終わりなどに、基礎的事項を確認するタイミングを適宜つくる。	地図・グラフ資料の問題演習をスモールステップで重ねていくことで、判断するポイントを身につけていく。	社会的事象を多面的・多角的に分析する力を醸成するために、複数の資料を用いたり他者と交流することで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
I C T等を適宜活用しながら、学んだことを整理し、分析するなどして基本的事項の知識の定着を目指す。	地図・グラフ資料の問題演習をスモールステップで重ねていくことで、判断するポイントを身につけていく。	社会的事象を多面的・多角的に分析する力を醸成するために、複数の資料を用いたり他者と交流することで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習した単元ごとの小テストに加え、既習事項の小テストを適宜実施することで、基本的な語句の知識・理解の定着を図る。	昨年度に引き続き、資料を読み取る機会を増やす。読み取るポイントを確認し、問いに正対して答えられるようにする。	社会的事象を多面的・多角的に分析する力を醸成するために、複数の資料を用いたり他者と交流することで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。